

# 青少年海外派遣 イギリス&オーストラリア

本市では、外国の生活や文化・産業などに触れ、交流を深めることで国際感覚を持った人材の育成を図るため、毎年市内の青少年を海外に派遣しています。今回派遣した佐藤メグさんと後藤美空さんに感想をお聞きました。

■問合せ／社会教育・体育課 社会教育担当 ☎ 21-6111

## 佐藤 メグ さん（興譲館高2年）

- 派遣期間／7月28日～8月14日（18日間）
- 派遣先／イギリス（ボーンマス）
- 主な内容／語学学校での学習など



### 視点を変えて、見つけ出す。

私が国外で生活して一番強く感じたことは、私たち人間にとって笑顔と挨拶がどれだけ素敵なアビリティか、ということです。

私がイギリスで2週間通った語学学校は国際色豊かで、幅広い年齢の生徒がいました。英語が得意な人から勉強し始めたばかりの人まで、話す英語のレベルも違います。私のホームステイ先のルームメイトは流暢に英語を話しました。無念にも私は、彼女とホストファミリーとの会話についていくことができず、初日から英語に若干の抵抗感を抱いてしまいました。

そんなときに私を前進させてくれたのが、ある男子の子の挨拶です。その男子の子とは学校のアクティビティでたった1回、一緒にフットボールをただけの仲でした。彼の「Hi」の一言は、僅かなコミュニケーションにさえ臆病になりがちだった私を変えてくれました。それから私は、一度でも関わりを持った人には挨拶をするようにと心がけました。声をかけた人は皆、必ず笑顔で挨拶を返してくれました。挨拶をする友達が増えてから、学校へ行って皆と英語で会話することが楽しみへと変わりました。

コミュニケーションに工夫された言葉は必要なく、自分の気持ちを態度で示すことができるかどうかがかぎだったのです。笑顔と挨拶で、国籍や年齢が違う人々とも簡単に繋がることができました。

言葉が上手く伝わらない環境で、多種多様な文化が混在した環境で、人と関わり合うことによって新たな角度から生活を見直し、様々な発見をしました。学校で行った日本文化紹介には、日本に詳しくないという友達も多く参加してくれました。彼らが喜んで帰っていく姿は日本を紹介する側の自分にとって何より嬉しいものでした。多文化の地へ足を踏み入れたからこそ、自国の文化を尊重し誇るということの必要性に気が付くことができました。

しかし、私が見てきたのは世界のほんの一部です。今回の経験と同時に世界はもっと難しいのであろうと少し思いました。より深い世界とのコミュニケーションと理解のため、これからも国際感覚を養い、実践と学習に励みたいです。



## 後藤 美空 さん（第二中3年）

- 派遣期間／7月26日～8月6日（12日間）
- 派遣先／オーストラリア（バースト）
- 主な内容／学校訪問、老人ホーム訪問など



### オーストラリアの優しさに触れて

私は、ホストファミリーに受け入れてもらう前、とても緊張していました。しかし、その不安な気持ちを忘れさせてくれるくらい、現地の方は親切に接してくれました。ホストファミリーや現地の学生が、私の片言の英語を一生懸命聞き、接してくれたことで、私も積極的に関わることができました。

オーストラリアは「自然豊かで、動物がたくさんいて、国民性がフレンドリーだ」と思っていたのですが、現地の人と話をすると、それは違うことが分かりました。温暖化の影響や、動物が車と接触する事故などで多くの動物が死んでしまっていること、治安が悪いところもあり様々な問題があることを話してくれました。本当のことを知るには、自分で見て確かめること、現地の人から話を聞いてみるのが大切だと学びました。

また、今回の体験から英語の学習では教科書の言葉をそのまま暗記するのではなく、自分で、身振り手振りも使いながら、気持ちで伝えることが大事だと強く感じました。オーストラリアの人たちが、温かい心で接してくれたおかげで、私も前向きになり、思いを伝えることができたのだと思います。特に、私のホストファミリーは、私を特別扱いすることなく接してくれました。いつの間にか、一日の終わり頃には「早くホストハウスに帰りたい」と思ったほど、本当の家族のような存在になっていました。ホストハウスでは、馬の餌やりや大自然の中での散歩、近所の人とのふれ合いなど、家族と日常生活を一緒に過ごせたことが、とても新鮮で幸せでした。現地の当たり前の生活を過ごすことが、私の心を温かくさせてくれました。

私が今回の研修で目標としていたことは、挑戦することです。「Let's try」私はこの励ましの言葉をたくさんの人にももらいました。以前の私は、恥ずかしがって遠慮したりして、受け身でいることがありました。しかし、現地の人にはできないできないに関わらず「挑戦してみよう」と励ましてくれました。また、相手がたとえ間違っても、気にすることなく、いつも前向きに捉えている印象を受けました。私は現地の人たちがとてもうらやましく、輝いて見えました。この研修中、多くの人々に支えてもらったことに感謝して、今回の貴重な経験をこれからの米沢の発展につなげていきたいと思っています。

